2027年3月期 第2四半期(中間期)

決算説明資料

株式会社ケアサービス（東証スタンダード 2425）

2026年11月5日

目次

01 | 業績の状況(決算概要・1Qで示した計画の進捗・事業別業績・営業利益の増減分析・四半期業績推移)

02 | セグメント別の詳細(在宅介護・シニア向け総合)

03 | 財政状態とキャッシュ・フロー

04 | 投資計画の進捗

05 | 通期見通し(Care2030からの逆算)

06 | 非財務の取り組み状況

Appendix | 中期経営計画「Care2030」の概要

Copyright 株式会社ケアサービス

2027年3月期 第2四半期(中間期) 決算概要

当2Qは前年同四半期比で増収に転換し、2Q単独で営業黒字を確保。上期の営業利益は18百万円と、通期予想(14百万円)を上回る水準。

(百万円)	26/3期 上期	27/3期 上期	前年同期比 (YoY)	27/3期 2Q単独	前四半期比 (QoQ)	27/3期 通期予想	進捗率
売上高	4,606	4,579	△27(△0.6%)	2,319	+59(+2.6%)	9,527	48.1%
営業利益	**27**	**18**	**△8**	**45**	**+72**	**14**	**126.0%**
経常利益	69	42	△27	67	+92	136	31.0%
中間純利益	49	22	△27	51	+81	77	28.8%

01 2Qは増収・黒字に転換

2Q売上は前年同四半期比+1.1%、前四半期比+2.6%。2前四半期比+2.6%。2Q単独の営業利益は45百万円(1Qは△27百万円)。

02 投資を続けながら費用構造を改善

人材・ICT・車両への投資を実行。派遣から正社員への直接雇用などで、労務費は前年同期比△50百万円。

03 通期予想は据え置き

下期は繁忙期を迎える一方、処遇改善・研修・採用の費用と補助金の計上時期を精査中。修正が必要と判断した場合は速やかに開示。

Copyright 株式会社ケアサービス

1Qで示した計画の進捗

1Qで示した4つの計画のうち3つは計画どおり進捗。在宅介護の回復は途上。

1Qで示した計画	上期の主な実績	数値	評価
新卒28名の戦力化(9月以降)	エンゼルケアは2Qに増収増益、デイサービスも9月に前年同月比プラス	エンゼルケア 2Q単独売上 +2.6%(前年同四半期比)	○
在宅介護の回復 (デイサービス・訪問入浴)	2Qは前四半期比で増収増益。デイサービスは9月に前年同月比プラス	在宅介護 2Q単独売上 +2.9%(前四半期比)、前年同期比（YoY)では△2.6%	△ 途上
2Q以降の投資 (車両・ICT・セキュリティ)	車両・器具備品の設備投資、送迎システム等のICT化を推進	上期設備投資 約58百万	○
通期予想の据え置き	上期の営業利益は通期予想を上回る。	上期営業利益 18百万	○ 据え置き

Copyright 株式会社ケアサービス

2027年3月期 第2四半期(中間期) 事業別業績概要

シニア向け総合が増収増益で全体を下支え。在宅介護は2Qに前四半期比で増収増益。

(百万円)	実績			前年同期比(YoY)		前四半期比(QoQ)	
	26/3期上期	27/3期上期	27/3期2Q単独	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	4,606	4,579	**2,319**	△27	△0.6%	+59	+2.6%
在宅介護サービス事業	3,282	3,197	**1,622**	△84	△2.6%	+46	+3.0%
シニア向け総合サービス事業	1,323	1,381	**696**	+57	+4.3%	+12	+1.8%
セグメント利益	376	384	**228**	+8	+2.2%	+73	+47.0%
在宅介護サービス事業	147	119	**84**	△27	△18.6%	+49	+141.0%
シニア向け総合サービス事業	229	264	**144**	+35	+15.5%	+23	+19.6%
調整額(全社費用)	△348	△365	**△183**	△17	―	△0	―
営業利益	27	18	**45**	△8	―	+72	―

在宅介護サービス事業

前年同期比の減収は前期の拠点統廃合の影響。2Qは前四半期比で売上+46百万円、利益+49百万円と回復。

シニア向け総合サービス事業

前年同期比で増収増益。クリーンサービスが+42.9%と伸長し、エンゼルケアは利益率が改善。

調整額(全社費用)

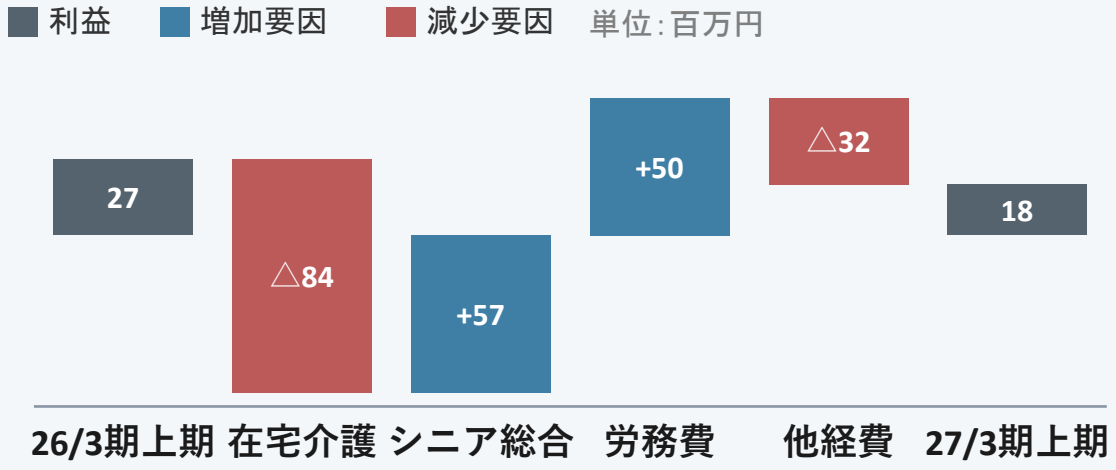
人事制度設計、研修教育費、ICT化などCare2030の基盤投資で△17百万円。

Copyright 株式会社ケアサービス

営業利益の増減分析

前年同期比は減収を労務費の効率化で吸収し△8百万円。前四半期比は2Qの増収と費用の抑制で+72百万円。

前年同期比　営業利益 27 → 18(YoY: △8)

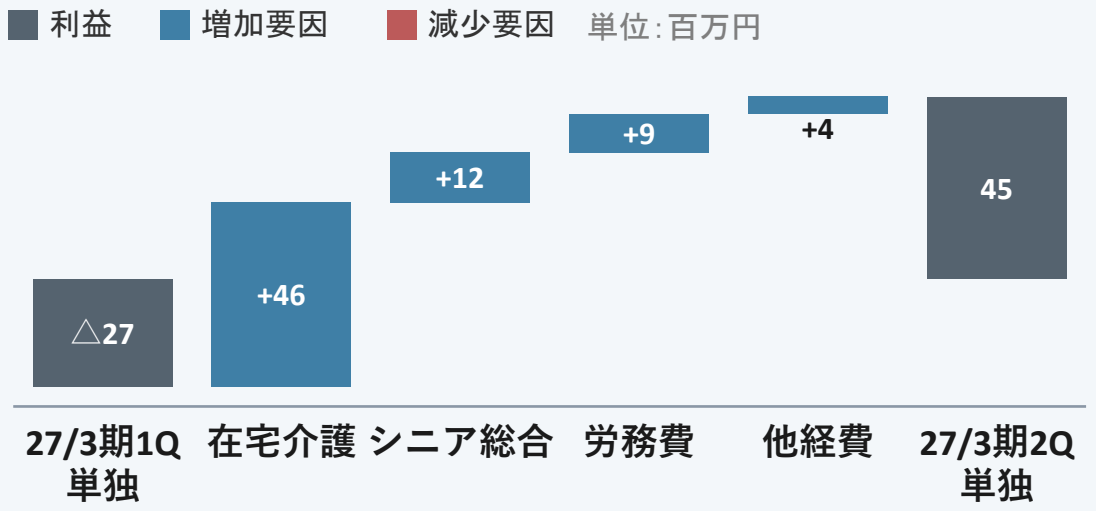


在宅介護：売上△84(前期の拠点統廃合の影響)

シニア総合：売上+57(クリーンサービス・エンゼルケアが伸長)

費用：労務費+50・他経費△32

前四半期比　営業利益 △27 → 45(QoQ: +72)



在宅介護：売上+46(デイサービス・訪問入浴が回復)

シニア総合：売上+12

費用：労務費+9・他経費+4

2Qは在宅介護・シニア向け総合ともに前四半期比で増収。
労務費は派遣社員から正社員への直接雇用などで、前年同期比で△50百万円と費用構造の改善が進む。

Copyright 株式会社ケアサービス

四半期業績推移

1Qを底に、2Qは前年同四半期を上回る水準となった。

（百万円）	売上高	営業利益	営業利益率
26/3期 2Q	2,293	34	1.5%
26/3期 3Q	2,361	45	1.9%
26/3期 4Q	2,249	58	2.6%
27/3期 1Q	2,259	△27	△1.2%
27/3期 2Q	**2,319**	**45**	**2.0%**

- 2Qの売上は前年同四半期比+1.1%。月別の前年同月比は7月+0.4%、8月+1.1%、9月+1.5%と改善が続く。
- 2Qの営業利益は45百万円と、前年同四半期(34百万円)を上回る。
- 第3・第4四半期は、エンゼルケアの繁忙期にあたり、売上・利益が積み上がる傾向。
- 下期は新卒の戦力化と立ち上げ拠点の黒字化で、繁忙期の件数を積み上げる。

Copyright 株式会社ケアサービス

セグメント別の詳細｜在宅介護サービス事業

2Qは前四半期比で増収増益。デイサービスは規模適正化を継続し、拠点当たりの収益性を重視。

売上高

3,197 百万円

前年同期比 △84百万円
2Qの前四半期比 +46百万円

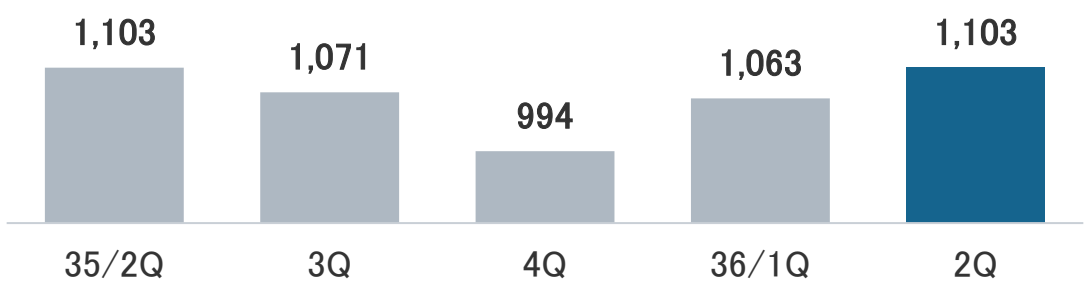
セグメント利益

119 百万円

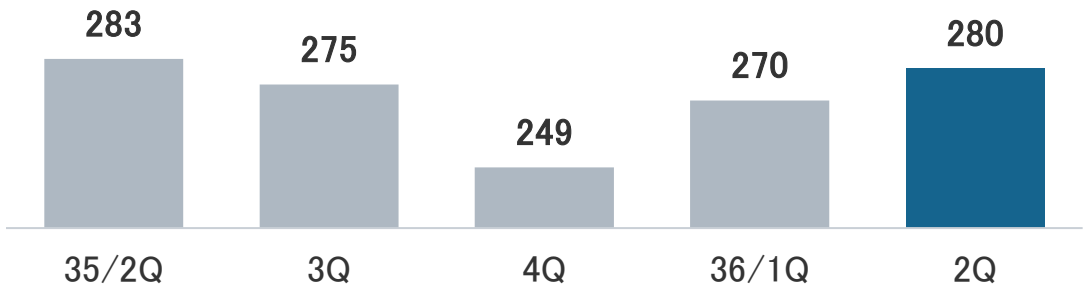
前年同期比 △27百万円
2Qの前四半期比 +49百万円

- 前年同期比の減収は、前期の事業所統廃合の影響が主因。デイサービスは9月に前年同月比プラスに転じた。
- 2Qは前四半期比で売上+46百万円。デイサービス+40百万円、訪問入浴+10百万円と回復。
- 人材派遣から正社員への直接雇用促進等の施策により、労務費の効率化が進む。採用(特に訪問入浴)は引き続き下期の重点課題。

デイサービス 売上推移(百万円)



訪問入浴 売上推移(百万円)



Copyright 株式会社ケアサービス

セグメント別の詳細｜シニア向け総合サービス事業

クリーンサービスが前年同期比+42.9%で成長を牽引。エンゼルケアは2Qに増収増益・利益率が改善。

売上高

1,381 百万円

前年同期比 +57百万円
2Qの前四半期比 +12百万円

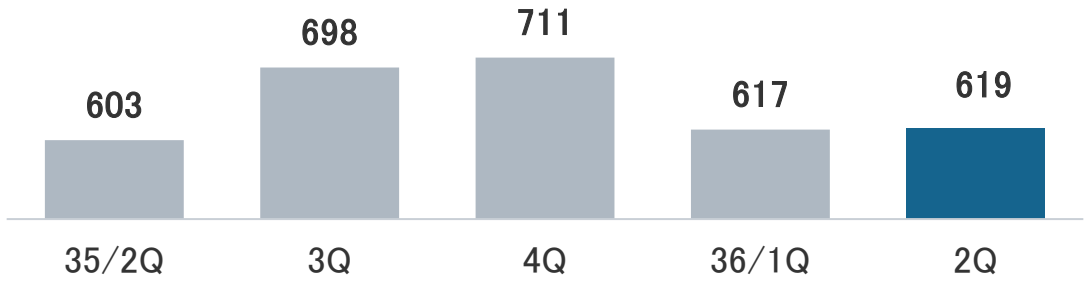
セグメント利益

264 百万円

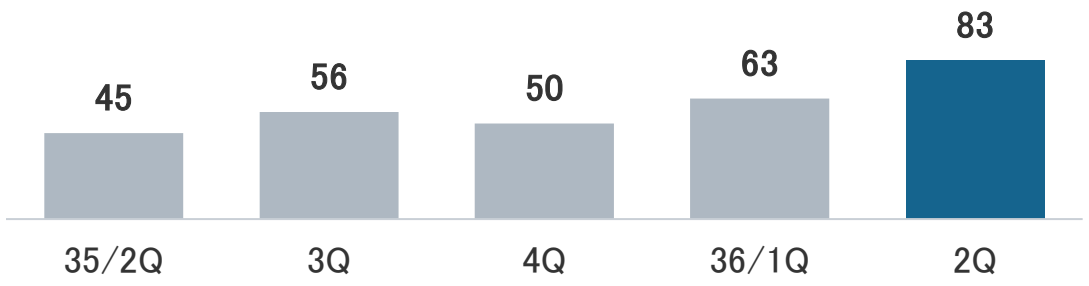
前年同期比 +35百万円
2Qの前四半期比 +23百万円

- エンゼルケア:2Qは前年同四半期比で増収(+2.6%)、利益率は+3.2pt上昇。
- 立ち上げ期の拠点の赤字は順調に縮小しており、売上に貢献。
- クリーンサービス:前年同期比+42.9%の増収。遺品整理等の需要を捉え成長が続く。
- 下期は繁忙期を迎え、新卒の戦力化と立ち上げ拠点の黒字化で件数を積み上げる。

エンゼルケア 売上推移(百万円)



クリーンサービス 売上推移(百万円)



Copyright 株式会社ケアサービス

貸借対照表

財務基盤は健全。自己資本比率74.7%、現金及び預金は前期末比+67百万円。

（百万円）	26/3期末	26/9月末	増減
総資産	3,866	3,874	+8
純資産	2,953	2,892	△61
自己資本比率	**76.4%**	**74.7%**	**△1.7pt**
現金及び預金	1,674	1,742	+67
売掛金	1,289	1,338	+48
負債合計	912	981	+69

- 総資産は前期末比+8百万円。現金及び預金+67百万円、売掛金+48百万円(2Qの増収)、流動資産のその他△94百万円(前期末の未収還付法人税等の入金)。
- 負債は前期末比+69百万円。未払費用+29百万円、未払法人税等+20百万円、退職給付引当金+11百万円、資産除去債務+3百万円など。
- 純資産は前期末比△61百万円。中間純利益+22百万円に対し、期末配当△83百万円。
- 資産の性格に応じて、手元資金・リース・借入を使い分け、手元資金は成長投資と株主還元に振り向ける。

Copyright 株式会社ケアサービス

キャッシュ・フロー

営業CFは217百万円。設備投資と配当を営業CFの範囲でまかなう。

（百万円）	26/3期中間	27/3期中間	増減
営業活動によるCF	76	217	+140
投資活動によるCF	△102	△55	+47
財務活動によるCF	△91	△93	△2
フリー・キャッシュ・フロー	**△25**	**161**	**+187**
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,717	1,742	+24

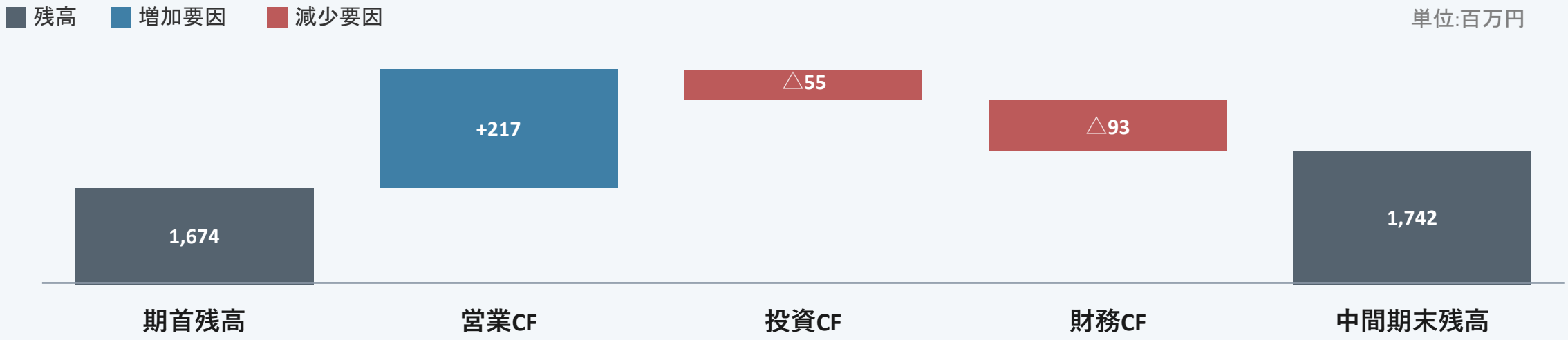
- 営業CF217百万円。税引前中間純利益40百万円、減価償却費71百万円に加え、未払費用の増加29百万円。売上債権の増加は△48百万円。
- 投資CF△55百万円。有形固定資産の取得△58百万円(車両の更新が中心)。
- 財務CF△93百万円。期末配当の支払△83百万円、リース債務の返済△10百万円。
- 営業CF217百万円で、設備投資約58百万円と配当83百万円の合計約141百万円をまかなう。

Copyright 株式会社ケアサービス

現預金の増減分析(上期)

営業CFで設備投資と配当をまかない、現金及び預金は前期末比+67百万円の1,742百万円。

上期の現金及び現金同等物の増減



営業CF +217:税引前中間純利益40、減価償却費71等

投資CF △55:有形固定資産の取得58(車両の更新が中心)等

財務CF △93:期末配当の支払△83、リース債務の返済△10

手元資金1,742百万円はCare2030の投資原資。車両の計画的な更新などの成長投資と、安定配当(年22円予想)を両立。

Copyright 株式会社ケアサービス

投資計画の進捗

上期はCare2030の投資を計画に沿って実行し、投資額は約77百万円。下期は車両等の計画的な更新を進め、規律ある投資を続ける。

上期 実施済み| 上期の投資額 約77百万円

- **人材(約14百万円)**: 人事評価・等級制度の刷新に外部専門家を活用。新卒・中途採用者の研修、採用チャネルの多様化。
- **拡大・更新(約50百万円)**: 事業拡大と安全性の向上に向けた車両等の取得、既存拠点の改修・移転。
- **基盤(約13百万円)**: 端末の更新、送迎システムの導入、情報セキュリティの強化などICT基盤の整備。

上期の位置づけ

Care2030の投資を計画に沿って継続。
上期の投資額は約77百万円(資産計上約57百万円・費用処理約20百万円)。

下期～ 今後の予定

- **人材**: 人事評価制度の設計、研修体系の整備、社内外研修の積極的な活用、採用の強化。
- **拡大・更新**: 安全性・環境への配慮から、車両の計画的な更新に着手し、来期にかけて順次入れ替え。
- **基盤**: ICTによる間接業務の効率化、情報セキュリティの強化を継続。

下期の重点

新卒の戦力化に向けた育成、車両等の更新・開発による安全性の向上、ICTによる業務の効率化を一体で進め、体制を整える。

※投資額は、Care2030の投資方針に基づき、事業の成長と経営基盤の強化を目的として実行した支出を集計(資産計上分と費用処理分の合計)。
キャッシュ・フロー計算書の「有形固定資産の取得による支出」(58百万円)とは集計の範囲が異なる。

Copyright 株式会社ケアサービス

Care2030からの逆算と通期見通し

通期予想は据え置き。上期の営業利益は通期予想を上回るが、下期の費用と補助金の計上時期を精査し、必要に応じて速やかに見直す。

（百万円）	27/3期 通期予想	上期実績(進捗率)
売上高	9,527	4,579(48.1%)
営業利益	14	18(126.0%)
経常利益	136	42(31.0%)
当期純利益	77	22(28.8%)
年間配当	22円	期末22円(予想)

上期売上進捗率 48.1 %(対通期予想)

26/3期 実績	売上高 **92.1億円**	営業利益 **1.3億円**
↓		
27/3期 投資元年	売上高 **95.2億円**	営業利益 **0.1億円**
↓		
29/3期	売上高 **102.5億円**	営業利益 **3.7億円**
↓		
31/3期 目標	売上高 **112.3億円**	営業利益 **6.4億円**

- 31/3期目標(営業利益6.4億円)の達成には、第1フェーズ(～29/3期)での人材・技術・仕組みへの投資が前提。
- 27/3期はその初年度。下期は繁忙期の積み上げと投資の執行を見極め、通期計画の達成を目指す。

Copyright 株式会社ケアサービス

非財務目標の取り組み状況

人とサービスの基盤づくりが前進。教育研修と人事制度への投資を開始し、従業員のキャリア意向調査を初めて実施。

01 ひとのケア｜働きがい・人材育成・多様性

進行中

- 教育研修と人事制度への投資を開始(外部専門家を活用)。
- 新卒28名の入社時研修を実施。
- 従業員のキャリア意向調査および満足度調査を実施(回答673名)。調査結果分析後、具体的な施策及びKPIを検討する。

02 サービスのケア｜ケアの品質・お客様の安全

進行中

- リスク・コンプライアンス委員会(社外取締役が委員長)を継続開催。全事業部と管理部門が共有してアクシデントだけでなくインシデントも報告し改善できるよう仕組み化。
- 当社サービスに欠かすことができない車両の計画的な投資で安全性を高める。

03 地域のケア｜ ケアラー支援・産学連携・地域共創

計画中

- グリーフケアやDeathTech研究について、海外の大学で調査を実施済。
- 今後、国内外で産学連携を通してエイジング社会、多死社会に関する研究とコミュニティを拡げる。
- ビジネスケアラー支援や産学連携など、ケアする人・される人がともに暮らしやすい社会に向けた施策を行う予定。

04 地球のケア｜環境負荷の低減

進行中

- DXによるペーパーレス化、産業廃棄物の適正処理のため、必要な設備投資を積極的に行う。
- 車両の更新によりCO2排出の削減を進めると共に、ソーラーパネルを搭載した新たな車両開発を行い、順次入れ替えを予定。

マテリアリティはCare2030の枠組みを「4つのケア」として再整理したもの。
非財務KPIの進捗は、通期決算で追加報告する方針。

Copyright 株式会社ケアサービス

上期のまとめ

2Qは前年同四半期比で増収に転換し、営業黒字を確保。上期の営業利益は通期予想を上回る水準で、下期は繁忙期に向けて稼ぐ力を高める。

業績	上期売上4,579百万円(前年同期比△0.6%)、営業利益18百万円。2Q単独では売上が前年同四半期比+1.1%、営業利益45百万円。
事業	在宅介護は2Qに前四半期比で増収増益。シニア向け総合は増収増益で、クリーンサービスが前年同期比+42.9%。
投資	人材・ICT・車両への投資を継続。下期は湯灌車の計画的な更新に着手。
見通し	通期予想は据え置き。必要に応じて速やかに見直す。
非財務	教育研修・人事制度への投資を開始。キャリア意向および満足度調査を初めて実施し、結果を研修体系と評価制度に反映。

規律ある投資のもと、新卒の戦力化・車両の更新・拠点の入れ替えで、Care2030第1フェーズの基盤を固める。

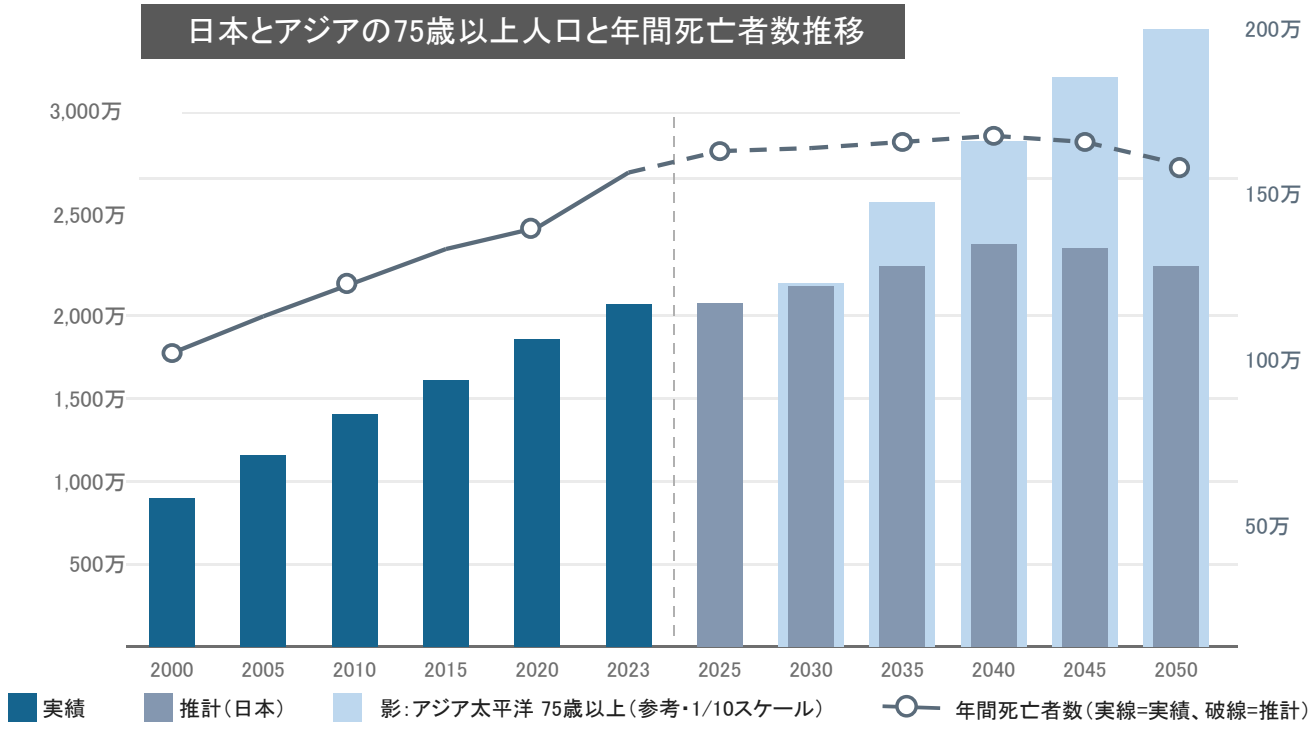
Copyright 株式会社ケアサービス

Appendix

中期経営計画「Care2030」の概要（2026年6月公表）

長期的な市場環境

急速に高まるケアの需要に対し、社会のインフラはまだ追いついていない。第二創業期は、この連続したニーズに応え続ける。



約2,400万人

2040年代の後期高齢者数

2025年比 +約200万人　2050年代まで高水準

160万人

今後25年、毎年亡くなる人数

2040年 約167万人ピーク 以降も高止まり

2.3倍

介護給付費の拡大（2040年度推計）

2018年度 10.7兆円 → 2040年度 24.6兆円

3.4億人

アジア太平洋 75歳以上人口（2050年）

2025年比 約2.5倍　日本のノウハウは輸出資産

◎ 追い風

- 在宅看取り政策の推進
- AIによるオペレーション効率化
- 単身高齢者増によるワンストップ需要拡大

△ リスク

- 2027年介護報酬改定の不透明感
- 介護人材不足の深刻化
- 運営コスト（人件費・物価）の上昇

出典：総務省統計局「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所／内閣府「2040年を見据えた社会保障の将来見通し」2018年5月／UNFPA「Population and Development Data: Asia-Pacific 2024」／UN WPP

Copyright 株式会社ケアサービス

中期経営計画期間（27/3期～31/3期）業績計画

事業への資本配分方針に基づき、第二創業期の持続的成長基盤を確立する。

26/3期 実績

現在地

売上高	92.1 億円
営業利益	1.3 億円

29/3期目標

第1フェーズ 完了

売上高	102.5 億円
営業利益	3.7 億円

31/3期目標

売上高	112.3 億円
営業利益	6.4 億円
営業利益率	5.7 %
ROE※	10 %

第1フェーズ｜27/3期-29/3期　基盤・事業投資強化期

第2フェーズ｜30/3期-31/3期　収益化加速期

※ 新リース会計（2027年4月1日以後開始事業年度から適用）の当社適用は28/3期より。本計画の数値は新リース会計基準を適用せずに算出。

Copyright 株式会社ケアサービス

事業ポートフォリオ — 全11事業の役割

すべての事業にCare2030における役割があり、11の事業が相乗効果を生みサービスの質を高め拡大できるようにつながる。

01 成長ドライバー

- デイサービス
- 訪問入浴
- エンゼルケア
- 配食サービス

02 次の成長の芽

- クリーンサービス
- 小規模多機能型居宅介護
- 訪問看護

03 送客・連携のハブ

- 福祉用具貸与販売
- 居宅介護支援
- 紹介サービス

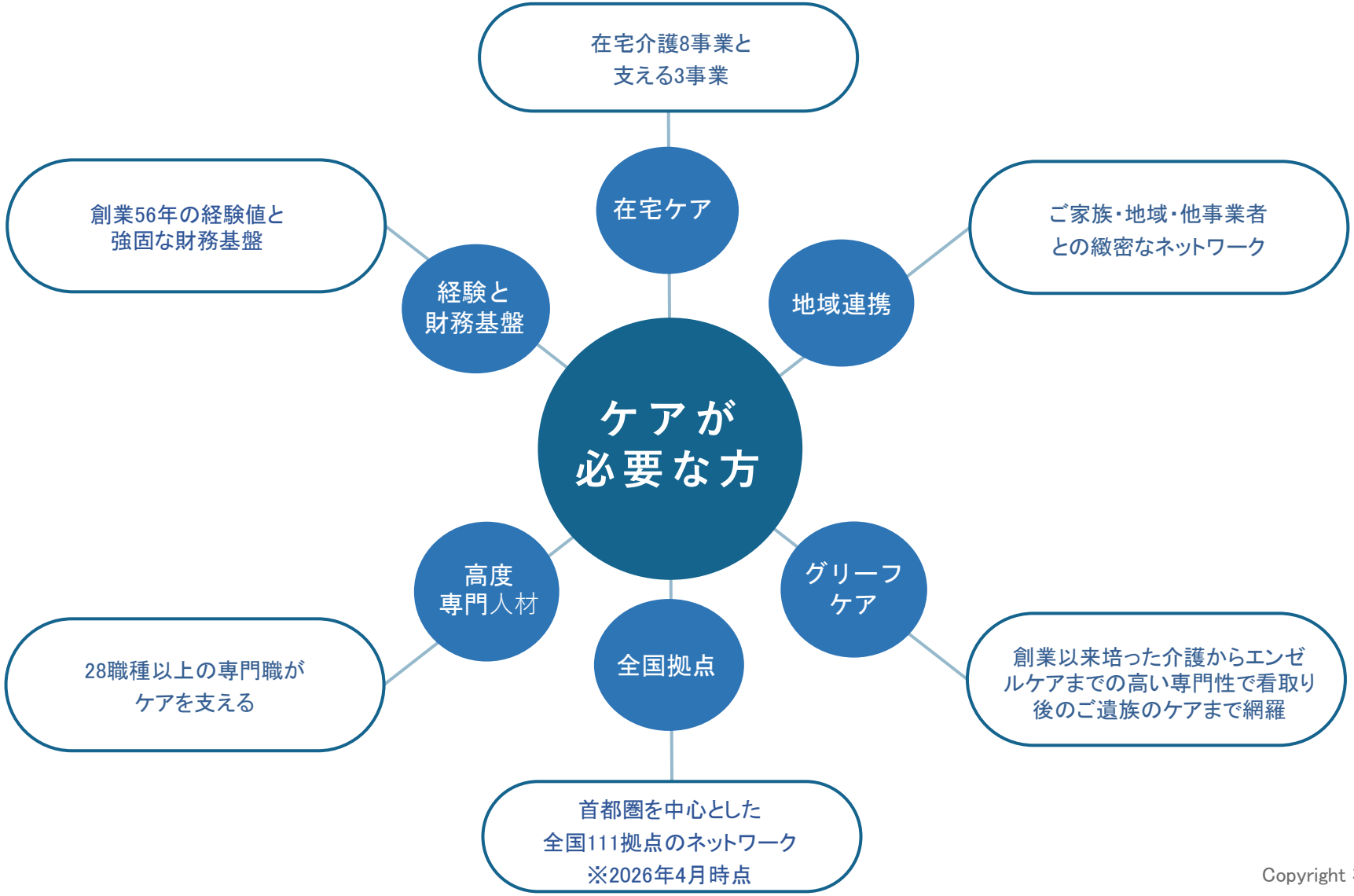
04 暮らしを支える基盤

- 訪問介護

Copyright 株式会社ケアサービス

当社の強みと優位性

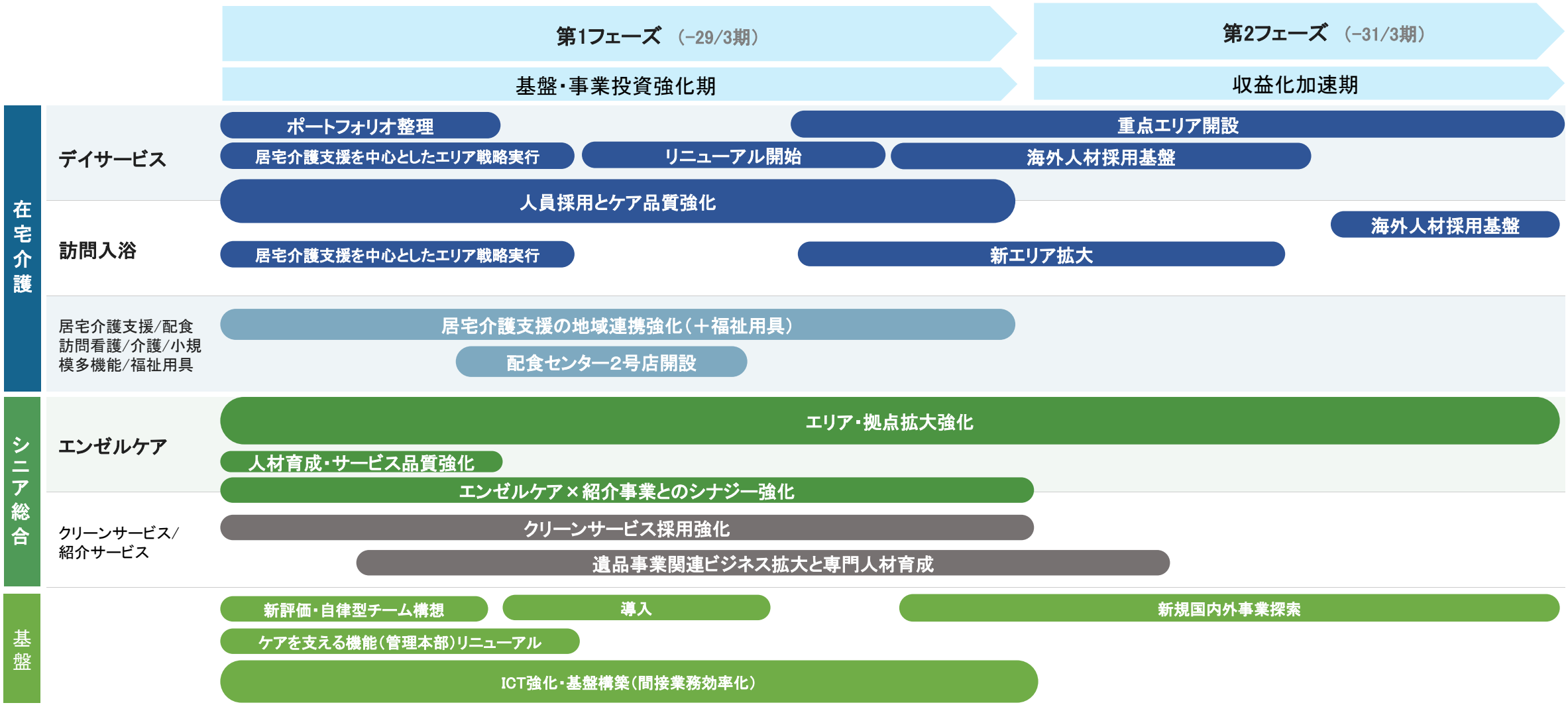
「在宅介護から看取り、そしてグリーフケアまで」。ケアが必要な方が、安心して生きるための支えとなる唯一無二のアセット



Copyright 株式会社ケアサービス

Care2030 実現ロードマップ

2030年KGIを念頭に重点事業を中心とした多様な事業でのシナジーを起こす。



Copyright 株式会社ケアサービス

中期経営計画期間の投資方針

保守的投資姿勢からの転換。Care2030 では積極的な事業投資へ。

01 事業投資

自己資本比率76.4%の手元資本を、既存事業・経営基盤の再強化と新規事業開発に積極投資する。

既存・経営基盤投資
守りの再強化

新規事業開発投資
攻めの成長

02 株主還元

事業投資を優先したうえで、安定的で規律ある還元を実施する。

配当性向30%以上

Copyright 株式会社ケアサービス

5ヵ年投資配分方針

既存事業の改革と経営基盤の再構築へ優先的に配分しながら、安定的な株主還元を実施する。

5ヵ年投資総額（目標）

14～22 億円

5ヵ年配分原資※

約 **22** 億円

※ ①手元キャッシュ＋②5ヵ年利益予想額-③手元必要運転資金(26/3期年間売上高の1か月で概算：7.6億)として算定

既存事業・経営基盤投資

8～12 億円

- 既存拠点の改修・統廃合・リロケーション
- 配食センター2号店開設
- 新規拠点開設
- 車両購入・送迎車両など入替更新
- ICT・情報セキュリティ基盤整備
- 人材投資・自律型チーム運営の全社展開
- ブランディング 等

新規事業開発投資

2～4 億円

- 事業開発費
- マーケティング費
- 業務提携関連費

株主還元

4～6 億円

- 既存・経営基盤投資及び新規事業開発投資を優先
- 規律ある安定的な配当を実施

Copyright 株式会社ケアサービス

株式会社ケアサービス

〒143-0016 東京都大田区大森北1丁目2番3号
資料に関するお問い合わせ:IR担当

本資料のいかなる情報も、弊社株式購入や売却などを勧誘するものではありません。
本資料に記載されている業績予想及び将来の予測等に関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。
従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。
万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おき下さい。

Copyright 株式会社ケアサービス